

【緑地を楽しむ本】

『奈良 鹿ものがたり』

中村 文人文 川上 悠介 写真

佼成出版社



奈良公園の周辺で、普通に歩いている鹿を見ると、驚き、そして和み、嬉しくなります。でも、あのチョコボールのようなフンはどうしているのだろうか？と長年の疑問でした。若草山に登った時、子ども

心にチョコボールのフンだらけだった記憶が強く残っていました。

この本によると、奈良公園には、鹿のフンを食べるコガネムシが60種ほどいて、それが公園内にいる1300頭の鹿のフンを食べているとの

こと。そしてそのコガネムシのフンが栄養となって芝が育ち、それを鹿が食べている、と。人間がフンを掃除したり、芝を刈ったりすると、年間で約百億円ほどかかるという試算になる、とも書かれています。絶妙なバランスの上に、あの風景ができていたのだな、とあらためて感心しました。

「奈良の鹿愛護会」という団体が、病気やケガをした鹿の保護をしたり、鹿と人との共生を目指して24時間年中無休で活動している様子も紹介されており、緑地と同じく縁の下のちからもちの重要さもよくわかります。

(遠藤)